



長崎商法會議所

條約改正ノ義ニ付建言書



Vertical columns of faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.



條約改正ノ義ニ付建言

條約改正ノ一事ハ我獨立帝國ノ盛衰
財政ノ消長ニ関スルモノニシテ之ヲ
実行スルハ方今ノ最大急務タルハ論
辨ヲ要セサル所ナリ是ヲ以テ我政府
ハ深ク其利害得喪ヲ討究セシカ為メ
各地ノ高法會議所ヲシテ貿易ノ實際
ヲ審議復申セシムルニ至レリ於是乎
當高法會議所モ亦下問ノ榮ヲ辱フス
ルヲ得夕リ抑モ當高法會議所ハ長崎

大正十一年四月
隈橋郵寄贈

市民ノ結合ニ成レルモノナレハ其結
合ヨリ發生スル所ノ意見ヲ開陳スル
ハ即チ當會議所ノ本分タルヲ信スル
ヲ以テ今下問ノ細目ヲ詳議復申スル
ニ當リ先ツ稅則改正ニ付其大綱ヲ具
申スルノ如シ
今夫レ海關稅則ヲ主宰スルノ權ハ何
人ニ屬スルモノナリトスル乎之ヲ法
理ニ問ヒ之ヲ事實ニ照ラヌニ我政府
ノ主宰スル所ナルハ疑ヒヲ入ル可ラ

ス其權已ニ政府ニ屬ストセハ之ヲ改
正スルモ亦夕政府ノ權内ニアリ故ニ
締盟各國ノ交際ニ對シ公義ヲ破リ公
信ヲ失フニ非ルヨリ
締盟各國ニ於
テ之ヲ遮リ之ヲ妨ルノ理アル可ラヌ
況ンヤ我國業已ニ條約改正ノ預約アリ
リテ今其期限ヲ經過シタルニ於テ
ヤ然而現行條約ノ如キハ國民未開幕
政衰暮ノ日ニ成リシモノニシテ其不
公不理ナルヤ灼然タリ原來貿易ノ要

旨タル波我交互ノ公利ヲ分収スルニ
在リ苟モ理ニ背キ情ニ戾リ其利ヲシ
テ一方ニ偏倚セシムルカ如キアラハ
終始彼我ノ交誼ヲ完フシ通商ノ旺盛
ヲ期スヘキニアラサルナリ然而ノ現
行條約ノ如キハ則チ交互ノ利便シテ
一方ニ濫帰スルモノニシテ自ラ貿易
ノ衰凋ヲ促カシ隨テ波我交際ノ親睦
ヲ永遠ニ保續スル能ハサルノ勢ヲ有
セリ之ヲ既注ノ成跡ニ徴スルニ我國

今日財政ノ困難ヲ誘起セルモノハ即
チ二十年来履行セル不平等ノ條約
ニアリト云ハサルヲ得ス今若シ之ヲ
改正セスシテ存其數年ヲ經過セハ我
帝國ハ當ニ如何ノ慘狀ヲ呈スヘキヤ
貿易益衰頽シ國家ノ財政終ニ救フ可
クサルニ至ラントス故テ請フ貿易上
公利ノ一方ニ偏倚スル明証ヲ舉ヒ抑
モ各國ノ税法ヲ觀ルニ内国税ノ重キ
ハ我國ヨリ重キハ十ク海關稅ノ輕キ

ハ我國ヨリ輕キハ十之今我國ノ稅則
ヲ以テ歐米諸邦ノ稅則ニ對照スルニ
最モ甚キ差異アリ波ハ國家ノ財政ヲ
海關稅ニ委子テ而シ我ハ及テ内國稅
ニ委ヌ我海關稅ハ歲入中の一激分子
ニシテ彼ノ海關稅ハ歲入中の一大部
分ナリ波ニ在リテハ至重ノ關稅ヲ課
スベキ物品モ我ニ在テハ至輕ノ關稅
ヲ課スルノ香操ナリ是レ豈彼我交互
ノ公利ヲ分収シテ貿易ヲ旺盛ニ導ク

ノ理ニ通ヘリトスヘケンヤ由是觀之
稅目ヲ改正シ海關稅ヲ增加セザルヘ
カテザル所以ノ理ハ已ニ明カニシテ
而之ヲ改正スルハ時ニ今日ニ在リテ
已ニ晚キヲ知ルニ是ルヘ以テ固テ左ニ
當會議所カ希望スル所ノ改正方法ヲ
具陳セントス
之ヲ要スルニ改正ノ方法トハ各國稅
稅ノ比例ヲ斟酌シテ至當ノ稅則ヲ設
クルノ一ナリ而テ此改正方法ハ我東

京大坂ノ兩會議所ニ於テ業ニ已ニ獻
議スル所アリ當會議所ノ考案ニ大ニ
其精神ヲ兩會議所ト同スルヲ以テ改
正ヲ要スル事項ニ起旨及其實方決ハ兩
方ヲ以テ之ヲ兩會議所ノ論議ニ譲リ更
ニ一歩ヲ進メテ改正ヲ希圖スルノ精
神ト彼ノ外國人ガ主張スルノ主義ハ
却テ自家ノ利益ヲ傷害スルノ理由ヲ
陳述以テ波瀾ヲ備見テ破新論ト云今夫
レ現行條約ヲ改正スベキガ公理ハ既

ニ前ニ陳述セシ所ノ如ク其改正方法
ハ東京大坂兩會議所ノ詳論スル所ナ
ルヲ以テ假令排己ヲ主トスルノ外國
人ト雖モ公道ハ在ル所公利ハ存スル
所ハ金ク現行條約改正ノ端ニ出テサ
ルヲ知悉セシナレハ之然ルヲ英國公
使ハ下問ニ答ヘタル同國商人ノ設立
セル横濱高法會議所并ニ兵庫大坂聯
合高法會議所ノ意見ヲ聞クニ願ル理
ニ悖レルモノアルヲ信スルナリ今其

要點ヲ掲ケンニ彼レ曰輸入税増加ハ
日本ノ貿易ニ害アリ曰ク輸出税停止
ハ外人ニ利スル所ナシ曰唐税ノ制ヲ
設クヘシ曰ク借庫料ヲ減少スヘシ曰
ク沿海貿易ノ航權ヲ外人ニ附与スヘ
シ曰ク内地雜居ヲ外人ニ許スヘシ曰
ク新港ヲ開クトモ其利ヲナカレ一シ
ト是等多クハ我高法會議所ノ意見ト
反對ノ點ニ在リ之ヲ要點トシ我高法
會議所ノ目的トスル所ハ輸入税ハ

尚ホ現行ノ條約ヲ保存シテ而シテ此改
正ニ因リテ更ニ其他ノ新利益ヲ求メ
ントスルニ過キ又是レ實ニ正義ニ通
スルノ論理ナルヲ將テ情ニ通スルノ
意志ナルヲ又公利ヲ謀ルヲ道ナルカ
抑モ交誼ヲ全メスルノ術ナルヲ唯外
人ノ公平ナルニ志ニ許ヘテ自ラ判裁
セシムルノ外ナキ也
抑モ貿易ノ利ハ彼我交互ニ分収シテ
然ル法永遠ノ便益ヲ謀リ以テ其旺盛

三期スヘキハ理ノ家ニ親易キ所ナリ
且夫レ貿易ノ利ハ交際上ノ親睦ヨリ
來ル者ナレハ若偏ニ己ヲ利セント欲
スルヨリ我國ノ民情ヲ毀リ隨テ交誼
ヲ損シ施テ貿易上ノ利益ヲ失フニ至
テハ内外ノ國民ヲ并セテ共ニ不幸ニ
沈ムハ理ニアテズ也是當會議所ノ最
モ過歎スル所ナリ外人若シ茲ニ注意
シテ假令我國ノ利ヲ謀リ得ルモ唯自
家永遠ノ利害ニ注意スルアラハ亦自

ラ情ル所アルヘシ
當南洋會議所ハ遠回リ條約改正ニ付
尚一棄ル希圖スル所ハ吾人アリ即チ
各國領事ノ高業ヲ營スルモ茶スルト
是ナリ抑モ各國領事ハ彼我人民ノ間
ニ起ル糾訟ニシテ我レ原告タレハ之
レカ曲直ヲ判スルハ職ヲ兼務スルノ
人ナリ聞ク所ニ依レハ各國內地ノ裁
判官ニハ高業ヲ營ムハ禁アリ又原被
告ノ間裁判官ノ親戚ニ係ルモノアル

力又ハ裁判官ト怒掌アル人カ或ハ調
訟ノ事柄ニ関係アル人裁判官ナル片
ハ甲若クハ乙ハ其親戚怒掌關係アル
理由ヲ陳述シ之ヲ他ノ裁判所ニ訴ヘ
或ハ其裁判所ニ於テ被告ナルトテ拒
ムヲ得ルハ法律アリ是等皆偏頗人
裁判ヲ預防スル爲主意ニ基キシナル
今則令邦領事ニテ商業ヲ營ムル者
ハ其同國人商人ハ皆其同邦人トシテ調
訟ノ事柄領事ニ關係セキヲ保テ難シ

此ノ如キ人ニ對シ曲直ノ判決ヲ仰ク
ハ原告者ノ意思ニ難キ事ナリ然レモ
各國ノ領事ハ其本國ニ於テ品行方正
ナル人ヲ擇テ派遣セテモ之ルモノニ
シテ其裁判ハ其國ノ法律ニ依連スル
モノナレバ決シテ偏頗依怙ノ裁判ナ
シト假定スルモ然レモ商業上ノ調訟
ニシテ其被告ハ裁判官ヲ兼帶スル領
事ナリトセバ之ヲ何人ニ訴ヘン事其
國ノ書記官代テ之ヲ調訟ヲ受理スル

モノトスルモ其書記官モ亦均ク高業
ヲ習ムモノナレハ其事務ニ關係ナシ
ト謂フヘカラス況ン中被告者ノ隸屬
タラシニハ是亦原告者ノ安業隸屬ス
ルガ人ニアラザルヲ又他國領事ノ
裁判ヲ乞ハントスル事豫メ之ニ條約
モカルヘカラス伍令條約アリトスル
モ其領事モ亦高業ヲ習ル人ナラシハ
訴訟ノ事務ニ關係ナキヲ保テ難シ然
レハ則臨時我政府ニ具申シテ立會裁

判ヲ開カレシトテ乞フスル事假令
其事ハ許可アルニモセヨ之レカ爲メ
一時異ヲ曠過セザルヲ得ズ元來高業
上人訴訟ハ通常民事裁判ニ於テ尚
其審判ノ遲キヲ憾ム今ヤ殊ニ高法裁
判所人設立ヲ希望スルハ秋ニ當リ通
常民事裁判ヲ乞フニ尚ホ多數ノ時日
ヲ費ヤス力如キアラハ實ニ堪ヘ難キ
人不便ナリ此人如キ不便アルカ爲ニ
我人民ハ伸暢シ得可キ權利ヲ屈シ忍

ヲ春テ詞訟ヲ起サ、ルニ至ルモノ新
カラズ實影響ハ信ヲ貿易上ノ契約ニ
置カシメサルニ帰シ到底我人民ノ不
便トナルニ過キス而天彼國民ニ對テ
モ為メニ幾分ノ不便ヲ免カレサルナ
リ故ニ我政府ノ談判ニ附リ領事ノ商
業ヲ營ムルヲ停止スルカ已ムル無ク
ニハ領事ニ對スル詞訟ノ一部ナリト
モ別ニ裁判法ヲ設ケラレシムルヲ希望
ス是レ当高法會議所カ貿易上ニ關係

スル一害ト認メ此言ヲ發スルノ由リ
得ナルニ出ル所以ナリ
前條ニ開陳スル所ハ抗則改正ヲ要
スル理由及ヒ改正ヲ要スル事項ノ大
略ニシテ畢竟輿論ノ帰着スル所此点
ニ在ルヲ表明スルニ過キサルナリ而
シテ下問ヲ辱フスル所ノ細目ノ如キ
ハ速ニ調査ヲ遂ケ條分條折シテ復申
スルノ務ヲ怠ラサルヘシ謹テ茲ニ申
議ヲ献ス

長崎

明治十三年三月

高浜會議所

會頭

松田源五郎

大藏卿佐野常民殿

大藏卿佐野常民殿

松田源五郎

高浜會議所

